

Name _____

Applicant number _____

Spring 2008 A/O English Essay—New York

When is a person old enough to be responsible*? Laws in different countries show different opinions about this.

When a person is 18 years old in Japan, he or she can drive a car. At 20, a Japanese citizen can vote in elections and buy alcohol. In most of the United States, individuals can drive when they are 16, vote when they are 18, and buy alcohol legally only when they are 21. Many European countries, such as Spain, Italy, and Belgium allow citizens to drink beer or wine at 16, and vote and drive at age 18.

At what age do you think a person becomes old enough to make good decisions? Explain the reasons for your opinion.

*able to choose for oneself between right and wrong

Name _____

Applicant number _____

Spring 2008 A/O English Essay—Tokyo

Getting married is one of the most important decisions a person makes in his or her life. In former times, parents chose the husband or wife for their child. Now most people choose their partner alone. When is a person old enough to make this important decision?

In Japan, a person must be 20 years old to marry without the consent* of a parent. In China, women can marry at 20, but men must be 22. Most of the United States and most European countries allow a person to marry at age 18.

What do you think is the right age for a person to be allowed to decide to marry? Explain the reasons for your opinion.

*permission; approval; agreement; saying “yes”

慶應義塾ニューヨーク学院

二〇〇八年度 春季アドミSSIONズオフィス入学者選抜

「国語小論文」(ニューヨーク会場用)

注 意

- 一 机の上には受験票、問題冊子、筆記具、消しゴム等以外のものを置いてはいけません。
- 二 指示があるまでは、開いてはいけません。
- 三 この冊子は問題用紙、解答用紙、各一枚、計二枚です。確かめてから始めなさい。
- 四 解答時間は六〇分間です。
- 五 印刷に不鮮明な部分などがあつたら、声を出さずに手をあげなさい。
- 六 解答は問題用紙の注意事項に従って、解答用紙に記入しなさい。
- 七 問題の内容についての質問にはいっさい応じません。
- 八 すべて監督者の指示に従って静かに受験しなさい。
- 九 問題冊子はすべて回収します。持ち帰ってはいけません。

受験番号	
氏名	

課題 左のページの文章を読んで、考えたことを述べなさい。(字数制限はなし。)

注意 一、たて書きで書くこと。

- 二、自分の文章に題名をつけること。題名は第一行目に『 』をつけて記入すること。
- 三、文章を、いくつかの段落に分けて、読みやすいようにすること。
- 四、文字をできるだけ書いていねいに、美しく書くこと。
- 五、なるべくたくさん書くこと。解答用紙の裏まで書く場合は、用紙裏の矢印の所から始めること。

マーケティング会社に入社して一年足らずのAさん(25)が退職を考えていると相談に訪れた。人事異動が発令され思ったポジションに配置されなかつたからだという。結論を出す速さに驚きつつも、以前、新人社員研修で指導し優秀な新人という記憶もあつただけに、彼自身のメンタリティーの問題だと気づいた。

まずは彼の話が尽きるまで聴くことに専念した。会社の先見性のなさや、上司や周囲の能力の低さ。その中には社会的に通用しない事柄も多く含まれていたが、ひとつひとつ聴き、認めてうなずいた。彼の意見をひたすら聞くカウンセリングを四回ほど続けた後、彼は一言「ようやく肩の力が抜けた」とつぶやいた。

聞くと、会社で話をするとすぐに反論や説得が入り、自分の意見が否定されてばかりいたという。認められない、理解されないと感じるほど「自分だけは分かっている・・・」「自分が自分が・・・」という思いが一層強くなり、周りを見下すようになったと振り返る。

数カ月後、退職することをやめたとAさんが報告に訪れた。最近では「自分が・・・」という思いが強くなったときには、友人に話を黙って聴いてほしいと頼んでいるという。自分の意見を表明できただけでも、周囲を見下す思いは静まり客観的に物事を整理できるようになるらしい。

理想だけが目に入る時期ほど、それが実現されそうにないと分かると周囲を見下しやすくなる。特に「認めてもらつた」経験がないと、この傾向は出やすい。認められないから見下すという単純な反動は、やがて過度の自己愛を生み出す。「周りから愛されないから自らを愛するしかない」という人物を生み出してしまいかねない。

多くの新人を受け入れる時期となつた。周囲の大人は、まずは本人の言い分を懐深く受け止め、説教や反論は少しおきながらおらかな気持ちで成長を促してほしい。

ピースマインド臨床心理士 渋谷 英雄

(本文は、日本経済新聞より抜粋した。)

慶應義塾ニューヨーク学院

二〇〇八年度 春季アドミSSIONズオフィス入学者選抜

「国語小論文」(東京会場用)

注 意

- 一 机の上には受験票、問題冊子、筆記具、消しゴム等以外のものを置いてはいけません。
- 二 指示があるまでは、開いてはいけません。
- 三 この冊子は問題用紙、解答用紙、各一枚、計二枚です。確かめてから始めなさい。
- 四 解答時間は六〇分間です。
- 五 印刷に不鮮明な部分などがあつたら、声を出さずに手をあげなさい。
- 六 解答は問題用紙の注意事項に従って、解答用紙に記入しなさい。
- 七 問題の内容についての質問にはいっさい応じません。
- 八 すべて監督者の指示に従って静かに受験しなさい。
- 九 問題冊子はすべて回収します。持ち帰ってはいけません。

受 験 番 号
氏 名

課題 左のページの文章を読んで、考えたことを述べなさい。(字数制限はなし。)

注意 一、たて書きで書くこと。

- 二、自分の文章に題名をつけること。題名は第一行目に『 』をつけて記入すること。
- 三、文章を、いくつかの段落に分けて、読みやすいようにすること。
- 四、文字をできるだけ書いていねいに、美しく書くこと。
- 五、なるべくたくさん書くこと。解答用紙の裏まで書く場合は、用紙裏の矢印の所から始めること。

民法の成人年齢の二十歳から十八歳への引き下げが検討されている。子どもっぽいといわれる日本人はいつ大人になれるのか、生物学者の中村桂子さんに聞いた。

日本人はいつ大人になれるのか

私はヒトの専門家ではないので、学問的に見て人間がいつ成熟するかは分からない。ただ、自分のことしか考えられないのが子ども、周りのことを考えてその中で自分を位置づけられるのが大人とするならば、小学校高学年、つまり十歳前後から急に大人になるという感覚がある。実際に、その年齢へいから地球環境問題などに興味を持つ子どもたちが増えるようです。

そう考えると十八歳は立派な大人のはずだが、日本を見渡すと、まだまだ「精神的に」子どもという印象が強い。十八歳で二十歳か三十歳、四十歳になっても子どもっぽい。それは自己中心的な考え方をする人が多いからでしょう。年齢、職業、地位にかかわらず、日本人全体が子ども化しているのが現状で、いかに大人に

自然とのかかわり大切

なるかが問われている。

■ヒトが成熟するためには複雑な自然とのかかわることが欠かせないと、中村さんは説く。

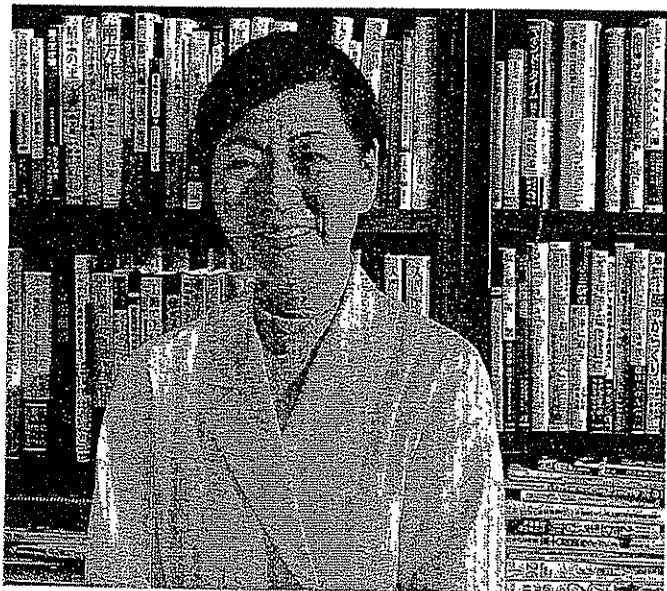
「自然とのかかわるべきだといっても、機械を一切使うなどいうわけではない。効率ばかりを追求するやり方では自然を見えないところに追いやっ

てしまつので、見直しましよ」と言いたいです。自然とのかかわりが必要なのは、本来人間は自然の一部であり、そこからゆくり育つことの大切さを教えてもらえろと思つたり。一歳なり一歳で、五歳なり五歳で経験すべきことをきげんと踏まえなければ、大人になれないと思う。小学生は農業を経験した方がいい、というのが私の持論で、実際に五校ほどの小学校の活動とかわっています。農業を見にいくなかに、小学生たちはすごく魅力的な顔をしている。発言を聞いても、表現力がとても豊か。それは「こうすれば必ずうまくいく」というルールがない自然を相手にするからだ。

自然とのかかわるべきだといっても、機械を一切使うなどいうわけではない。効率ばかりを追求するやり方では自然を見えないところに追いやっ

■親の子どもとの向き合い方も問われている。

生物学的にみたら、ヒトほど子ども時代が長い生き物はほかにいない。親が子どもを育てるのは主に哺乳類と鳥類だが、期間はとても短い。日本人もちょっと前までは十歳すぎから働き、甘えは許されなかった。大人として扱われていたわけです。もちろん今は事情が違うので、ある年齢まで経済的に支える必要はあるだろう。しかし(親が子離れして)独立を促すことが求められていると思いませんか。



「J」生命誌研究館館長
中村 桂子さん

(なかむら・ひつじ) Tomoda 年東京生まれ、東京大学大学院修了。三環化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早大教授などを経て2006年から現職。著書に『ゲノムの見えない』『生命誌』を主筆する。『産経』を代表する。

(本文は、日本経済新聞より抜粋した。)